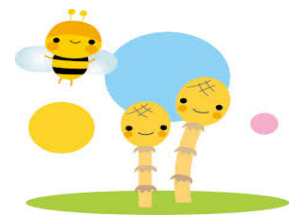




# 園長便り



2020年3月2日発行  
セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

## 信頼できる方を持つ

皆さんお元気ですか？巷ではコロナ・ウイルスで恐怖に落ちています。どんなときにも、どんなところでも、絶えず希望を持って生きることができればこんなうれしいことはありません。

3月になり、いよいよ卒園式です。これからは小学校という大きなところに出ていきます。大きな希望を持って小学校に上がっていきます。しかし、世の中を見てみますと様々な問題が浮上してきています。自然災害、経済問題、健康問題、社会問題、国際問題など諸々の事柄がニュースとして入ってきます。子どもらに希望を持ってもらいたいですが、果たして子どもらに希望を持たせることができるのかと言うと、それは、非常に難しいように思われます。子どもらの、つぶらな輝いたひとみと、曇らせることなく希望に満たせてあげたいです。

私は、聖書にある種まきの譬えが好きです。「見よ、種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまった。ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは60倍、あるものは30倍にもなった。」(マタイ 13:3~8)この譬えにあるように、私たちが今学ばなければならないのは、これらの農夫に学ぶことです。彼らは畑を耕し、肥料をすき、種をまき、水をかけ、後は信頼して成長するのを待つのです。忍耐のいる働きです。しかし、そのおかげで、多くの実をむすぶ植物を目の当たりにして喜びます。

私たちも、そのような喜びを得たいと思います。そのためにも信頼できる方を持つことは非常に大事です。次の文章は「輝くひとみをいつまでも」という本からの抜粋です。参考にさせていただければ幸いです。

「子供達が生涯明るい希望を持って、意欲に満ちて生きるためには、幼い日に、親はどんなことに留意して育てていけば良いのでしょうか。

まず第一に、忍耐して待つ経験をするのが大切なのではないのでしょうか。私は幼い日に、母と買い物を終わっての帰路、夕立に遭い、ある家の軒先にしばらく雨宿りをしたことがありました。私が雨の中を急いで帰ろうとした時、母は『夕立はやがて晴れるからしばらくここで待ちましょう』と言いました。母の言葉通り、まもなく青空が出てきました。雨雲の隙間から現れた青空を、私は今でも忘れることができません。

この経験は、その後の人生の貴重な経験となりました。常に現実をよく見つめ、落ち着いて待つことを学んだのでした。

子どもたちは、欲しいものが買ってもらえない時とか、何か失敗した時など、無気力にならず、そのわけを考え、忍耐し、次の機会を期待して待つようにしていかなければなりません。このような経験を積み重ねていくことは、希望を持って生きることにつながってゆくのだと思います。

第二にたいせつなことは、常に自らの未知の可能性に気づく経験だだと思います。何かやればできる、という可能性を高めてゆく努力によって希望が生まれます。

第三に、愛を知ることです。いかなる困難に直面しても、自分を愛し、悲しみをも共有してくれる人があることに気づく時、人は極限の状態に置かれても、希望に生きることができると言えます。

子どもたちが、いかなる時にも絶望しないで生きてゆくためには、確かな支えが必要であります。子どもたちに真の希望を与える存在であることができるのは、いったいどれでしょうか？」